

令和5年度 檜原村住民対話集会

日時：令和6年2月13日（火） 午後19時30分～午後21時00分まで

場所：南郷コミュニティセンター

村側出席者：村長、副村長、教育長、教育課長、産業環境課長、都民の森管理事務所長、

企画財政課主幹

参加人数：37人

《意見交換》

■この前9日に質問した内容で、産業廃棄物処理施設計画予定地のほぼ真ん中に水路地が入っている。昭和56年から57年にかけて工事により水路を移動している。移動した形で昭和57年に東京都が境界確定している。これについては産業環境課長、担当係長さんと一緒に法務局に行き、これはおかしいということで、法務局も何か出てきた時、それは通さないということを言っていますので、何回かの交渉の中で、産業環境課長さんの方から、6年度に予算をつけて測量するという報告は聞いていますが、何回か村長、副村長さんに会って説明を求めましたが、内容がはっきりしないので、先日どうするのか、どこまでやるのかと。村長さんは確定までやると言われましたが、確定なら立ち合いをするんですねと確認したところ、産業環境課長でないとわからないとのことでしたので、今日に持ち越しました。もう一つその関連ですけども、赤道を某業者が壊していますので、それを元通りに復元しろ、元に戻せと言っている中で、3月いっぱいまでに戻させると言っていましたが、某業者の状況をぜひ聞かせてもらいます。

→【産業環境課長】

私の方からお答えをさせていただきます。まず初めに、その跡地の水路の関係でございますが、実は森沢林道という林道が水路と並行して入っており、その森沢林道の中に、村が当時取得をした公共用地が入っており、今は公共用道路ということで登記がされているところで

ございます。その公共用道路となっているところの敷地、それが現地でどこなのかっていうのがちょっと不明になっているところがあります。今回、令和6年度予算の方では、その敷地が現地のどこにあるのか明らかにしたい、という予算を取っております、まず公共用地を明らかにして、それに伴ってその水路がおかしいのであれば、追って調整させていただきたいと考えています。とりあえず公共用地がどこにあるんだということを確認するための予算をとらせていただいております。それから、赤道を壊してしまったというところでございますが、以前にもお話をさせていただいている通り、3月末、年度末までには復旧をさせていただく予定とさせていただいております。

■今、檜原村の公共道路を明らかにするとのことですが、立ち会わなきゃいけないことじゃないですか。立ち会ってやるんですか。

→【産業環境課長】

もちろん村側だけで決められるものではございませんので、当然村が管理している水路、それから公共用地、それからその周り、所有者さんがいますので、そちらの方には立ち会っていただいて、図面にしたいと考えています。

■そうすると、私がコメントを産業環境課長さんにお聞きしてるんですけども、私が測量した限り、現在の水路を直さなきゃいけないってことになると思うんですが、それは立会いしてそこまでやるってことですよね。今回、予算を取ったってことは。

→【産業環境課長】

先ほど申し上げた通り、公共用地の場所が現地で定かではないので、そこをまずはっきりさせたい。それをはっきりさせた上で、例えばその水路に影響があるところでしたら、ゆくゆくは直さなければならないと考えています。

■いや、立会いしない限り明確にならないじゃないですか、その場所が。

→【産業環境課長】

所有者さんがいらっしゃいますので、当然立ち会っていただいて、確認をしていく形になると思います。

■私も資格を持っているんでね、それは水路を直さない限り無理ですよ。

→【産業環境課長】

現地の測量をされているということですが、当然役場で発注する場合にも他の業者さんもいらっしゃいますので、そういったところの業者さんを入れながら、立ち合いをしていきたいと思っています。

■最後に立会して確定するってことですよ。

→【産業環境課長】

ゆくゆくはそうなると思っています。

■ゆくゆくというのは、その場で確定しない限り無理ですよ。

→【産業環境課長】

もちろん測量をして、おかしなところは現地で直さなければいけません。それは前にもお伝えしました。

■何故こんなこと言うかというのは、私の測量だと真ん中に入っていると、村道の地主との賃貸の契約をした場合ね、年間30万円以上入ってくるんです。30万円前後。7mの幅で100m近くあるんです。700平米、今450円から500円ぐらいじゃないですか、賃料が、1平米あたり。そうすると30万円程入ってくる計算です。ちゃんと契約すれば。それを無効にすれば、水路を逆に戻せよと言うかもしれません。でもそれは、やった人に直させるのが当然なことで、その辺も考慮して、その半分なら半分、10万円なら10万円が入ってくると思うんですよ。今後ね、やっぱり金儲けじゃないんですけども、そういうこともしないと、この村は続かないと思いますよ。

→【産業環境課長】

わかりました。ご提案ありがとうございます。そういうご意見も参考に進めていければと思います。

■先ほど村長のご挨拶で、2月の広報に住民の声を反映した内容が書かれています。確か10点ほど書かれていたと思うんですけど、その内容の中でですね、沿道の樹木の伐採の経費というのがあったと思います。その関係で、確かにすごく景観の関係で杉の木を切っただいて綺麗になっているんですけど、道の反対側、山側の方もすごく木が多くて、そちらの方もぜひ切っていただきたい。あと西戸倉から中山の辺りまでは側溝の泥とか綺麗に取ってあるんですが、檜原に入ると側溝の泥はとってなくて、上の草を刈るとかその程度なので、ぜひ同じような形で、やっていただけるよう経費を計上していただきたいと思います。

→【村長】

沿道整備については、ずっとやってきているんですが、基本的には杉、檜の木を先に伐採しております。山側の木については、電線が通っていたりしますので、倒れた時に切ることは出来ます。そういうところも伐採していきたいと考えています。いまのところ山側を伐採したのは檜原村の1番地あたりだけです。あとトイレのところも伐採しました。本来は川側、山側両方伐採しないと、災害が起きたときに対処出来ないと考えています。木が大きくなって非常に危険なところがありましたら、村の方でも対応していきます。あとは歩道ですか。

■側溝です。蓋の上に泥がたまって、夏はそこに草が生えてるんですけど、この草だけは取るんですが、側溝の上の泥は取らないんですよ。それが、あきる野の西戸倉から中山あたりまではあきる野市で綺麗にしているので、ぜひ檜原街道もやっていただければと思います。

→【村長】

はい、わかりました。それは工区と年間2回ぐらい会議がありますので、そのときにそういう要望をさせていただきます。

■今の発言に関連してですけども、檜原の中で順番に杉の木を切っただいて大変ありがたいと思っています。ですが、中山からの道路、あきる野市の部分に入った瞬間、両側に木があり、とても暗い気分で毎日出勤するという感じがあるんですが、路面に日が当たらないので雪も解けにくい状況もありますので、檜原村からあきる野市にかけ木を切っただけかないかと、要望を出していただきたいと思います。

→【村長】

実は、あきる野の市長とその件について話をしました。檜原村では、景観整備のために、相当のお金を使って川側の木を切るという事業をやっていますので、あきる野市についても戸倉から上流、檜原村にかけて木が相当生えていますので、同じような事業をやってほしいと市長には既にお伝えしてあります。私が村長になってすぐにお会いして話しましたので、既に8ヶ月ぐらい経っていると思うんですけど、なかなかいろんな関係で、手をつけていない状況ですけども、今後も機会があれば私の方からもう一度お話させていただきます。

■ちょっと視点は違うかもしれませんが、春から秋、11月ごろまでの交通、夜間と朝方。夏は4時ごろから明るくなる時間にバイクがすごい。団体ではなく一台一台来て、あの音がうるさい。安眠妨害です。ツーリングに関しての規制はできないものですかね。12月の西の風に、小菅村が警察署に感謝状を贈ったという記事があったんです。感謝状の内容はローリング族の取り締まりを行い、捕まえたというような感じで書かれてましたが、村の方からそういう感謝状を送るぐらいの気持ちで取り組めないか。相当、環境的に良くないんですよ。特に家の近くにはカーブがあって、そこで吹かし込むと思うんですが、ものすごい数ですよ。バイクの数が。警察との懇談があったら一言お願いします。昼間通るぶんには全然いいんです。せめて夜と朝方だけでも規制をかけてもらいたいということをお願いします。

→【村長】

オートバイや車がうるさいというのは私も実感しています。甲武トンネルの手前のところも夜中にローリングをやっている。小菅だか丹波の件については、そういうローリング族を一斉に遮断して捕まえた、西の風新聞に掲載していたかと思います。また、今言われているのはオートバイですね。オートバイが朝早くから相当の数が来て、曲がり角に向けた直線をものすごい勢いで通り過ぎる音が、うちも聞こえる状態です。これについては五日市警察署長と会う機会もありますので、その辺についての取り締まり等をやってほしいという話はさせていただきます。スピードの取り締まりをやると、村民も止められることがあり、積極的になれない部分もありますが、オートバイの朝早くから爆音をさせている、暴走族みたいな人については・・・。

■時間的な規制、昼間は別にいいんです。夜中と朝方が本当にひどいんです。観光を推すならマイナスです。スピードとかそういう問題じゃない。

→【村長】

その辺も含めて対策を考えます。スピードを出すからうるさいのかと思っていますが…警察にも、すごい音をだして走る人を止めて注意するとか、注意じゃ聞かないかもしれません、捕まえないとならないかもしれません。

■いい方法があったらぜひお願いしますということで。何か看板でも出して、檜原村は何時から何時までは、ツーリング中止ですというような感じで出来ればと。地元の人とか、普通にバイクに乗って走るぶんには良いと思います。ツーリング目的に来る連中というか、それだけ規制してもらいたい。

→【村長】

お気持ちは良くわかります。実際、難しい問題ではありますが、それについては警察とも相談しないといけないですし、庁内でもどうしたらいいか検討させていただきたいと思います。

■住民としては本当に安眠妨害です。その辺もよく警察に言ってもらいたいんですけど。

→【村長】

わかりました。

■企業誘致の優遇制度に関してですが、要件として三親等以内の親族ではない雇用者を一年以上雇用するとありますが、個人事業主として事業を起こす場合、過疎化の地域では、人を雇う際近い人に声をかけ雇用するケースが多いと思います。この制度を使いたいと思っても、そこがネックになって使いづらいので、要件の緩和をしていただきたいです。よろしくお願ひします、以上です。

→【村長】

ありがとうございます。企業誘致を今までやってきて、人を雇うことの条件がついてると思います。村内でも、村に頼まれて社員募集しますと言ってもなかなか集まらないのが現状だと思います。今は三親等以下の人を雇用するという条件になってると思いますが、その辺については少子高齢化が進んで、人がなかなかいない時代が来ていますので検討させていただきます。

■ありがとうございます。

■確認ですが、要望等もそうですが、村長が行政、村政、庁内の改革など掲げていたかと思えます。吉本村長になられて9か月が経ちましたが、自分の達成評価と申しますか、どれぐらいできているのか、考えているかなどお伺いしたい。それから広報の中で、協力隊の新たな募集2名についてあったと思いますが、その中に移住関係を担当してもらうような内容だったはずですが、その募集期間も終わったかと思えますが、今後ですね、移住定住を進めていく上で非常に重要だと思うので、その採用状況、決まったのか決まってないのか、応募があったのかなかったのか教えていただければと思います。最後にこちらの確認ですが、各補助金について、いろいろな活動等に対して村や東京都から補助がでますと、広報でも知らせていただいています。広報に載った一回限りです。補助金が続いているのかいないのかなど結構分かりませんので、見える化していただければと思います。補助金の一覧表とか、項目があって、こういう内容に対して補助が出ますよというようなものが整理されていけば、ここに行けば分かりますとか、無ければ整理していただきたいと思えます。以上です。

→【村長】

はい、ありがとうございます。それでは1問目の私に対しての開かれた村政がどのような形で進んでいるかということですが、村長選に出る際に公約をし、4本柱でいろいろな公約をしております。内容につきましては私の任期中の4年間で、全てやるのではなく必ず手をつけるといって考えております。そして庁内で、各課のどこが担当するかということ振り分け、それをいつまでにやるとか、そういう形で全て割り振ってあります。4年間のうちにできたら、結果が出るよう考えております。あと協力隊の関係で、移住定住、採用について、ここで募集をさせていただきました。3月いっぱい協力隊の2名の方、期限の人が1名、途中で辞めたいという人が1名、合計2名が辞めるので、募集をかけました。応募者はいま

したが、村でも応募の際に色々と書類を提出していただいています、今回は村の状況と合わない、その方の書類選考の際にご遠慮いただいた状況です。村では協力隊について、非常にいろいろな形で、移住・定住も含め役にたっておりますので、今後も募集をしていきますので応募者がいましたら、ぜひ紹介をしていただきたいと思います。また補助金の関係は一覧表も含めて、担当から回答します。

→【企画財政課長】

村の各種補助金ということでしょうか。おっしゃる通り、村の補助金は何種類かあるんですけれども、それを一元管理というか、一覧表で出したものは多分ないと思いますので、今後は各課に周知させていただいてホームページなり、村の広報なり、一連の補助金の概要がわかるような形で周知していきたいと思います。よろしくお願いします。

■なぜ要望したかといいますと、補助金を使った活動ができれば、より村も活性化していきだろと思うからです。有効活用させてもらう上で、こういった内容のものがある、請求できるんですよと公にし、いつでも誰でも見れるような形にしてもらえればありがたいなと思います。ありがとうございました。

■何点か僕の見る檜原の器というか、料理を盛り付けるお皿と捉えたら、いろんな要望をすると、おかずの盛り付けで何が欲しいかという部分で、やっぱり必須の部分の大きいんだと思うんですね。僕は自主的にこの村が健全な村、100年の村を目指すには、やはり収入源、補助金を引っ張るとするか、地方交付税だけに頼りがちの村は人口が減って税収が上がる要素は今のところありません。そこに補助金を出すということも、なかなか希望通りの補助金が組めないのかもしれないかもしれません。その一つに、この村で一番大事なのは水と空気と緑ですよ。自然は植林したために、弘沢の滝が一番売りでしょうが、水質はもうほとんど枯渇してしまうほどの水量になっています。そばに行けば、昔を知っていればわかりますけど、写真が水しぶきで取れなかった。今は全くかかることはありません。これは間違いなく水量が減っています。それは植林のためだと思いますが、何とか雑木林に戻していく。そのために先ほど木を切ると言っても収入源の問題がありますよね。できれば固定資産税、外の方がかなり持っていると思いますが、固定資産税の見直しをする用意があるか。あと緊急避難対策費、先日能登で災害がありましたが、人口減少を増やす要素と言ったら、そういう災害緊急受け

入れ地のようなもので、家をなくした人たちが本当に一時的に住めるような、そのために秋川消防署長だとかいろいろな方々と懇談してみたら、仮設でしか見てないんですが、僕が提唱するのは、檜原村役場周辺、本宿地内にですね、1000人ぐらいのキャパが設けられる住宅を建設して、生活ラインもなるべく近隣に集めないと、住む権利もありますが、これだけ疲弊してくる世の中ですから、コストダウンを図るためには、集中的に住む場所を集約するというのも一つの手かだと思います。それと収入アップを図るということで、私事で恐縮ですけど、今までは檜原村観光産業というものでやっていますが、何でも仕事はそうですけど、取り続けるっていうのには限界があります。そういう意味で努力したら、蓄積されていくシステム。村が企業誘致と言って、ほとんど失敗しちゃって相当の金額、計算してみるとこれからも出てくるでしょうけど、間違いなく大成する技量がないのかと思います。そんなことでメンテナンスを中心にストックされていく仕組み、村が第3セクターとして持つ用意があるかどうか。私の消防設備関係の仕事は工事も含め、金額的に特殊な事業ですけど、メンテナンスがありますので、外貨が稼げます。こういうものを村民をあげて教育していくと良いですね。職を手を持たせるというようなことがあれば、今は全て外注に頼んでるものから、そういう意味でも村で雇用できる仕組みができるようになれば、ここにも設備がありますし、役場もそうですし、学校も含めて公共のものだけでも200から300近く、それが村内の住民に給与として渡せるような仕組みができたらと思います。檜原村のどういうお皿を用意するか、完全に、健全な檜原を作るには、100年先の檜原が自立していくことを考え、補助金を引っ張ることしかできないのかもしれませんが、施設にしても全てがそうなので、収益が上がってるところがあるのかと思います。ある体制を作るには、経営感覚、創業の精神を持たないと、私はこの村が終わってしまうと思いますので、よろしくお願いします。

→【村長】

その件について、お答えになるかわかりませんが、答えさせていただきます。確かに村の税収は、今現在、1年間で2億円ぐらいの税収しか入ってきません。支出については約40億の予算を計上しております。主なものは国と東京都からの補助金です。それで賄っております。いろいろな形で補助金とか予算を組む際は、庁内でもいかに補助金をつけるか、つけるものを予算に組みなさいという指示はしております。そして水と空気、水量が減っていることについては、確かに、木が育ち、木が水を吸っているから、水が減っているのか、良く分かりませんが、昔より川の水が減っているのは確かです。固定資産税の見直しだとか、昭和30年代40年代に植え付けられた杉・檜がどこの山も育っている状況です。93%が山で66%が杉・檜の山になっています。それを伐採して元に戻すということをやれば良いのです

が、膨大な量で、それについては東京都の花粉対策とかで、花粉の少ない木を植えついたりしていただいて、木の更新をしているので、その役目も担っていると思っております。提案としていただいた災害時の受け入れについて、1000人ぐらいの住宅を作った方が良いのではないかと提案していただきましたが、人口が2000人の村で、1000人ぐらいの住宅を受け入れるために作るというのは、考えとしては良いと思いますが、現状から考えると難しいと思います。また、メンテナンス関係ですね。メンテナンスも防災の関係で行っていることは承知しています。村だけでなく、メンテナンスに関して、いろんな委託、契約をして支払っている、これは間違いないと思いますが。それを村が一括して契約をし、給料を払うということは、個人が契約をしていることですから、なかなか難しいと思っております。村のメンテナンスに関しては、入札等でやりますので、ぜひ応募していただければと思います。以上でございます。

■災害のとき、例えば能登地震クラスの地震があつて、かなりの家が住めない状態になった場合、どうするのかという時に、檜原村には平らな土地がないですよね、その中で、ある程度平らな土地を使用するという協定を結んで、災害時は畑を開放するという。

→【副村長】

以前大雪があつた際、農協さんをお願いして、農協さんの方で農家さんの畑を一時的に貸していただき、そこに災害用のプレハブを建てたり、資材を置かせていただいたりという協定は結ばせていただいています。そのような形で急遽、緊急の仮設の住宅を建てさせていただいたりですとか、村の中の方に大きな影響がなければ、総合グラウンドですとか、広場を使わせていただいて、早急に仮設住宅を建てるということ考えていると思っております。

■公衆トイレについて、少し意見を述べさせていただきたいと思っております。南地区には、本宿から南郷、上川乗の間に公衆トイレが一つもない。私は柏木野で商売しておりますが、お客さんがトイレを貸してほしいと来ることがあります。出来ればその区間に公衆トイレが出来ると良いと思っております。

→【村長】

公衆トイレの関係は来年度予算で、実態をちゃんと調べ、トイレが今どういう状況か、それと駐車場、トイレもどういうところであれば良いのかを踏まえて調査をし、整備をしようと考えています。トイレも結構古いトイレがあります。便器も古いので取り替えてくれという、前回の人里のときにも意見が出ており、調査をして、きちんとした形で配置を考えましょうと。今お聞きしました上川乗にあります、本宿から上川乗間のどこかに作りたいですね。

■ 柏木野も場所も頑張って見つけているんですが、もし見つかりましたら一つよろしく願います。また、やまぶき屋はダメなんですか。トイレがあるので広げれば公衆トイレになるのではないのでしょうか。検証をお願いします。

■ 要望はいろいろあるんですが、1個だけ言いたいことがありますので発言させてください。私が今要望したい、要望というか意見、検討してもらいたいのはスクールバスについてです。檜原村は路線バスで通学するのが習慣みたいになってるのかもしれませんが、今回この要望を上げるきっかけになったのは、2月1日に学校入学説明会があり、妻が参加して、路線バスの定期券のお話がありました。私がどこに住んでるか村長はご存知だと思いますが、妻がデマンドバスは定期券が出るんですかと質問したら、教育委員会ではわからず、企画財政課に聞いてくれと言われ、問い合わせたところ、週3回の回数券が出ますという回答でした。週3回って聞いたときに僕はキョトンとして、学校は週5なのに何故週3回なんだろうと思ったら、デマンドバスが上平笛吹線が週3日運行ということで、3回だとわかりました。また、なぜ3回なんだろうと思って聞いたら、デマンドバス導入の際のアンケートで、週に3回ぐらい使うとのことで、そういうふうになったと思いますということなんですけども、学校は週3回じゃないので、デマンドバスを使えるときは使う、使わないときは歩く。実際歩いて通学している人も上平にいるはいるんですけれども、これを考えたとき、湯久保に知り合いがいて、湯久保も子供が5人、6人、近々8人ぐらいになるという話があるんですけど、そこもデマンドバスがないんですよ。それを考えたときに、スクールバスの方がいいんじゃないかと思い、電話とかでいろいろ確認させていただいたんですが、小学校が今の場所に統合されたときから、路線バス通学が始まったと思います。合併したのはいつか私にはわからないんですけど、結構前だと思うんですよ。そのときに多分スクールバスも検討されたとは思いますが、予算が厳しいみたいな話もあったので、路線バスを使った方がいいという判断になったと思いますが、当時と社会情勢は変わっていますし、スクールバスを出して

ほしいという要望が出ていると、これは聞いた話なのでわからないんですが、出てるって話も聞きますので、路線バス通学を決めてから、ずいぶん年数が経ってると思うので、今一度、保護者、今の小学校に通っている家庭とか、将来的に小学校に上がる家庭にヒアリングとかしていただいて、スクールバスにした方が子供たちの安心安全に繋がるんじゃないかと思ってまして、今一度、調査をするなり、もう一度天秤にかけていただいて、お金の面で見れば、絶対路線バスの方が安いのは目に見えてると思うんですけど、安心安全というところはお金で測れない部分だと思うので、ぜひ検討していただきたいと思います。あと質問したいのが、路線バスでやってきて何十年か経ってると思うんですけど、スクールバスに切り替えてみようという検討を過去にされたことがあるのか確認したいです。

→【教育長】

スクールバスに切り替えたらどうか、検討したかについては、個人的にはスクールバスが出ると、子供にとっては便利だろうと思って、どうですかねって話はしたことがありますが、やはり路線バスが、何しろ補助金をいくら出しても、どんどん減便される状態なので、子供たちが乗らなくなれば、ほとんど乗客ゼロになってしまうので、村民全体の足を考えると、路線バスを使っていくのがいいだろうということでした。子供たちには学校の時間等もバスに合わせて設定していますので、使っていただけたらと思ってます。それからデマンドバスについて、湯久保で通学にバス停から遠い場合に補助金制度を作って、補助金を出してるんですが、現在2キロ以上とデマンドバスを使う区間を規定し、それより短くなっているのですが、デマンドバスはどうして3回になったのか私もこれは承知していませんが、5回いけるといいのかとは思いますが、どのぐらいデマンドバスで行けるのか、運行に関しては、教育の方で回数その他を設定できないので、出た方がいいだろうとは教育的な立場からは考えます。

■もう一度アンケートをしていただけることは難しいですか。変な話、子育て世代にアンケートしても、9割ぐらいが上元郷に住んでいますので、アンケートしても多数決で負けるというのは何となくわかってるんですけど、空き家とかに移住者を住まわせていこうという考えがあるんだったら、その辺をケアしていかないと、子育てしにくい村じゃんって思われちゃうと思います。集めちゃうことは別に悪いとは思わないんですけど、空き家とかに若い世代に住んでもらおうと考えたら、そういうところは絶対ケアしていった方がいいと思います。

→【村長】

確かにですね、スクールバスに近くから乗った方が、これは子育ての人たちは非常に考えていると思います。そして湯久保の人たち、あそこはデマンドバスも入っていません。2キロ以上あるところにはガソリン代ということで、2000円ほど出してるんですが、本来はデマンドバスがあった方が、父兄としても良いかもしれません。今、スクールバスと路線バスの提案をしていただいたんですけども、これについては今どうしたらいいか結論が出ないので、検討させていただくという回答でよろしいでしょうか。

■ はい。検討していただきたくて「検討します」っていう言葉はよく聞くんですけど、いついつまでに検討して、こうなりましたっていうのをぜひ情報公開してほしいです。結局、口頭で伝えたので、いつも「検討します」って言って、結局、言った本人も忘れちゃうとかあり、うやむやになっちゃうことが多いので、今後は書類で出そうと思うんですが、検討します、いついつまでに、こういう結果になったので、駄目でした。または採用しますなのか、駄目なら駄目で、ちゃんとした理由があれば納得できると思うので、「検討します」じゃなく、その先があることを理解していただきたいです。

→ 【村長】

確かにスクールバスの関係ですと、教育委員会が検討していかなければいけないと思いますが、ただ過疎バスだとか、定期のバスの運行については、財政の方が西東京と調整をし、1年間にいくら補助金として出すか検討して、運行していただいている訳ですので、その辺の絡みも含め、これについては、いついつまでに検討した結果というのは、業者とかいろんな形のものがあるので、4月からの入学のことを考えていると思いますが、それまでに結論は出ないと思いますが、検討課題ということにさせていただきたいと思います。

■ それに対して補足になりますが、私は教育委員が主催している放課後学習という任意のもの、学校が終わった後に勉強をするというものに携わっています。一応私達の役目は勉強を教えた後にバス停まで行く。それで、北と南に帰る子達のバスの時間の差が50分あるんですね。北バスの子を帰りなさいと送り出した後に50分間待って南の子をバスに乗せるんですが、大変なのは北バスも檜原小学校の前から千足ですか、一区間だけバスに乗せて、それから茅倉の方に歩いていくという、茅倉は熊の出没の放送が流れてそんなに経っていないのに、子供が歩いて帰るんですけど、私は一度後から付いていこうかと思ったくらい不安だったんですけども、本日まさに近隣市町村にて強盗の事件があって、学校側はバス停まで送りなさい、送った後バス停へ保護者の方は迎えに来てくださいという連絡が回ったんです

けど、私達にはそれは全く周知されませんでした。学校の先生からそういう話を伺って、それも保護者は必ず来いと言わなかったわけですよ。熊の問題も今回の問題もそうなんです。が、事件が起きて何かが起きないと、結局動かないっていうのが実情なので、私はいつもバス停まで送っていった後、この子はバス停からどうやって帰るんだろうと思ってたので、そのスクールバスの問題も含め、スクールバスの件は、私達が子供を育てている頃から出ていましたので、ぜひ出してほしいと。でも、西東京バスの路線バス、運行の問題と、もちろん予算もですが、お金の問題じゃなくて子供の命を守る、これも大事にいただければと切に思います。これはすぐに結論出ることじゃないことは承知しておりますので、努力義務というか、ぜひ努力していただきのが希望です。

→【村長】

熊の件だとか、昨日の強盗事件とか発生したら、村でも防災無線でお知らせするという事はやっているんですけど、なかなか土日になると対応ができなくて、現状は放送が少ない感じはしていますが、そういう対応についてもこれからは考えていきたいと。スクールバスの件も、やはり取り入れるとなると、やはり南北同じ時間帯に対応しないとならないと思いますので、これについては子供の命を守るためにも必要であると認識しておりますが、どのような形で行うのが良いか、それに対し路線バスの運行が少なくなるといった事もあると思いますので、それも含め検討していかなければならないと思います。

■先ほど災害時の避難の方法とかのお話があったと思うんですが、神奈川県の実鶴町と、災害時応援協定というのを結んでると思うんですが、まだそれは継続されているんでしょうか。もし継続されているのであれば、その大まかな内容を説明していただけないでしょうか。お願いします。

→【村長】

副村長と確認し、協定を結んでいることは間違いありません。詳しい中身までは、今ここでは回答できないということです。

→【副村長】

手元にないので、分からない部分もありますが、こちらがもし助けが欲しければ助けを求め、向こうから助けを求められれば人を出すということの協定にはなっていると思います。自動更新でやっていますので、特別何もない限り伸びていくということ、今までそれに基づいた派遣をしたことも、派遣されたこともない状況です。

■応援協定を結ばれた当期、私が聞いた話だと、真鶴は海辺のため、津波の被害があった場合は檜原村に住民を受け入れ、檜原村に土砂災害等が発生した際は受け入れる内容だったかと思います。村民にも内容をお知らせいただくと、有事の際に安心できるとかと思いますので、よろしくお願いします。

→【村長】

はい。調べてみます。檜原村の家が、がけ崩れ等で住めなくなった場合は、真鶴まで行って過ごすよりも、できたら近隣で住宅を建てて過ごせれば、それの方がいいかと思いますが、食料だとかいろんな形で応援協定というのは結んでいますので、有効なところで相互に応援協定を行うということで、向こうに行って住むというのは、内容が現実とかけ離れてる部分もありますので、その辺りも含め見直しが必要かと思います。よろしくお願いします。

■あと10年で私も80歳になり、今住んでいるところも空き家になってしまう。病気でもすれば10年も持たないかもしれない。檜原村に住みたい人がどのくらいいるのか。できたら窓口を作っていただいて、檜原村の空き家に住んでいただいて、もう少し人口が増えるような、そんな方向を作っていただきたいと思います。今、檜原村に住みたいと言う人はいるんですかね。檜原村に空き家は何軒くらいあるんですかね。

→【村長】

以前調べたときは300軒ぐらいありました。その件について、少しお話させていただきます。村内には300軒ぐらいの空き家があるということで、今は貸してください、売ってくださいと言っても、なかなか応じていただけないんですね。それは何が原因か調べましたら、相続が終わってないとのことでした。2代前、3代前から相続が行われてないため、応じられないと。新年度から相続の相談業務を開始します。また空き家になる前から、居住者の意向を汲んだ相談、対応を行っていきます。住みたい人がいたら「貸すよ」と言っていただければ、

村でも、担当の方でデータを残し、本人の意向に沿って対応するようにやりたいと思います。移住定住については村でも対応していかないと、人口がどんどん減ってしまいますので、それについては土地の購入や、企業誘致、村営住宅を作るなど一生懸命やります。年間、子供が生まれるのが10人以下大体6～7人で、お亡くなりになるのが50人ぐらいいます。何もしなければその差が1年に減ってしまいます。人口統計調査を行う機関があり、12月に新聞報道された30年後の檜原村の人口は何人ぐらいだと思いますか。実は800人になるという統計が出ていました。減少率からすると、東京都の島も含めた全体でワーストワンです。一番減少するというのが檜原村です。次が奥多摩町です。高齢者比率が53%ですから、2人に1人は65歳以上ですね。ですから30年後には全ての人が、申し訳ないですけどお亡くなりになるということですので、2000人の村から半分の人が減るとおそらく800人ぐらいになってしまうという統計が出ていると思います。

■その窓口っていうのは作っていただけるんですか。

→【副村長】

移住定住、空き家も含めて、西庁舎にむらづくり推進係を置いて、そこで相談を受付けています。空き家を貸してもいいよという方がいる場合は登録をして、ホームページでもご紹介をしています。空き家を持っていて貸してくださる場合は、貸してくれる登録をした時点で5万円を登録料としてお支払いする、直すときに200万円かかれば100万円までは補助するという形で、今ある空き家を貸していただく場合は、若干の補助で使えるようにできる形も用意しています。

もし近所で空き家になっていて、持ち主と連絡が取れるような場合であれば、そういう形で活用できますので、ご紹介いただければと思います。以上です。

■矢沢林道の入口から、この道路は村道だと思うんですけども、速度制限の表示がないんですよ、車の。結構夏とか、フジの森とか、いろいろこっちの方に来るので、都内と他県のナンバーも多いんですよ。私も高齢なんですけど、地区に結構高齢者が多いんですが、この道をすごくスピード出して通る車が多いんですよ。ちょっとぼやぼやしていると、「おとっと」となることがあるので、速度制限の札を立てていただくことはできないものでしょうか。

→【村長】

標識にすると警察が関係してくるので、村としての看板なら作ることは出来ると思います。

■ここは、このくらいのスピードで通ってくださいとか、速度制限の看板でも立てていただくと良いと思うんですが、どうでしょうか。

→【副村長】

それは対応可能です。手作り看板、よく通行止めのとくに使うようなものですが。

■今の話は多分村道でも、言えば警察でつけてもらえると思います。警察に言うか言わないかだけ。あと、窓口は役場の方で入居者対応はやってくれるんですか。もし窓口対応を役場の方でしてくれるんだとすれば、村営住宅とかありますが、できれば入ってくれる人には、自治会、地域住民の付き合いができるような人をぜひお願いします。入ってから、私はしませんよじゃなくて、入る前に地域住民として、今は住民も少なくなっていて、自治会も大変なので、自治会に協力してくれるような人に、ぜひ入ってもらえるようにしてもらえればと思います。

→【村長】

住宅に入るときに自治会に入ってほしいということについては、もちろん村の方でも一声かけてますが、今後もそのように努めます。村では消防団に入ってくださいとか、そういうお話も最初に言わせていただいています。自治会の加入率、檜原村は高いほうなので、今後も加入については進めていきます。

■よろしくお願いします。

→【村長】

今、警察に言えばつけてくれるというお話もありましたが、標識はつけるのに時間がかかりますので、まずは看板で対応させていただき、その後、標識についても取り付けの対応をすることでよろしいでしょうか。

■家の裏は村道、旧道なのですが、一声かけたらすぐにつけてくれました。「住居者以外進入禁止」という看板をつけてくれと言ったら動いてくれた。言えばやってくれると思います。駐在さんに言った方が早いと思います。五日市警察に行くよりも駐在さんに動いてもらった方が早いと思います。

■先ほどの落葉樹についての話、水の問題はですね腐葉土というか、落ちた枯葉によってそこがスポンジ状になって水が蓄えられ、雪が降ったりしたものが長時間そこに蓄えられることによって、水がゆっくりと浸透するんです。そういう意味で、村の計画として捉えていかなきゃいけないんじゃないかと思うんですね。それと住宅の問題ですけど、災害受け入れ時について、村営住宅、前村長の時にはやられてたんだと思いますが、僕は分譲をするぐらいの、1000万円、2000万円ぐらいの分譲で入ってくるような人たちを受け入れないと、要は、お金が楽だとかいうレベルでここに来ちゃうと、税収は上がらないと思うんですね。そういう意味でやすらぎの里ですか、駐車場の山側は岩盤ですから、3面構造になると背中部分は岩場ですから、補強しないで3階建て4階建てぐらいの、エスカレーターでもエレベーターでも檜原も使える時代になりましたので、そういう意味で分譲棟、または住宅と全部総合的に、村の人たちが移り住めて、それで次の都市計画として本宿地区の直線道路、あの辺も空き家になってきてる部分もありますので、都心が考えているような空間、要するに空中を売って、地べたを商店街か何かにし、上は住めるようにするとか、斬新な発想をしない限り檜原は、はっきり言って魅力が生まれないんだろうと思うんですね。そういう意味で政策提言委員会みたいな、^{けんけんがくがく}喧々譁々できるような会を立ち上げていただけたらと思います。

→【村長】

今、最初に言った災害の関係で、水が一斉に出してしまうのはスポンジ状になっていないからだとも思います。杉山の手入れがされていない。だから下草が生えない。林業事業者に言わせると、保水力が無いわけでもない。本数があるので、ある程度の保水力はありますということで説明を受けています。ちゃんとした手入れをして、なおかつ本数を減らして、下草が生えていれば、ある程度の保水力があると聞いております。確かに、分譲住宅とかそういうものも考える時期に来ているのかもしれませんが、今は提言をする会議についても、少し時間をいただきたいと思います。以上です。

■人里のグラウンドを旧高橋家住宅の駐車場に使われていると思うんですが、人里の住民の方から聞いた話で、駐車場から都道に出るときに一時停止の標識もないし、停止線もないとこのことで、かなり危険なことが度々あるようです。そこで止まれという標識なり、停止線なりを引いていただけないかという意見を聞いたことがありましたので、どうなのでしょう。歩行者は押しボタン式の信号があるからよいのですが。

→【村長】

グラウンドについては、非常に車が入りますので、確かに一時停止の線とかもありませんので、今後は対応させていただきます。前回のときも、中で接触事故があった場合、誰が責任があるんだという話もありましたので、そういう看板も無いと指摘を受けましたので、その辺も含めて対応させていただきます。

■お願いします。

【司会】他にどなたかいらっしゃいますか。それでは、特に無いようでございますので、最後に吉本村長からお礼の御挨拶をもって終了したいと思います。

→【村長】

それでは大勢の方に今日はお集まりいただきまして、活発な意見をいただきました。これについては、村政に反映させていきたいと思っております。これからも、このような会議を年2回ほど開催していきますので、皆様の意見をいただいて、開かれた村政を私は進めてまいりますので、ぜひ協力をいただきたいと思います。今日は大変ありがとうございました。